

民生常任委員会記録

日時 令和8年5月14日（木）

場所 第二委員会室

午前 10時00分 開会

○後藤 啓委員長 おはようございます。ただいまから民生常任委員会を開会いたします。

本日は全員出席であります。直ちに本日の会議を開きます。

始めに、前回の委員会で政策提言のテーマとして「幼児教育について」が多数の方から出されましたが、前回の政策提言のテーマと重複しているということで、一旦事務局で持ち帰りとなりました。その後、事務局からは「違う切り口であれば問題ないが、園の統廃合、法人立保育園の経営課題については前回の政策提言に含まれているため、検証の中で進捗状況の確認、課題のブラッシュアップをしないまま再度提言をすることは想定していなかった。」

「市民や当局から『議会は提出した提言をチェックしていない』と捉えられかねないのではないか。」「現在の政策提言は、来年の令和9年9月に提出されるため、喫緊の課題であるならば尚のこと検証の中で指摘していくほうが、結果として速やかに働きかけができるのではないか」という理由で、このテーマは検証の中で深めていくほうがよいのではないかとのことでした。

「幼児教育」が重要な課題であることは間違いありませんが、前回の提言をしっかりと検証することが、政策提言の実効力が高まることに繋がると考えます。

これについてご意見等ございませんか。高橋千代夫委員。

○高橋千代夫委員 検証するのはわかる。どういうふうにしていくつもりですか。

○後藤 啓委員長 前回の政策提言については、今年の12月までに何らかの形で当局に対して検証結果の報告を行う方向だというふうに伺っております。

高橋千代夫委員。

○高橋千代夫委員 何らかの形って。検証はどういうふうにやっていくんですか。我々がやるんでしょ。違うんですか。

○後藤 啓委員長 市村浩一委員。

○市村浩一委員 議会改革推進特別委員会でちょっとお話をさせていただきますと、それも一昨日ちょっと話題になりまして、今後、議会改革推進特別委員会でも検証のあり方というもの、今検討中であります。ですから、こういったふうな形の中で検証していったほうがいいですよということを、議会改革推進特別委員会の中でお示しをさせていただくために議論している途中でございますので。本来であれば委員会でどういうふうにしてやっていけばいいのかということもあろうかと思いますが、一応議会改革推進特別委員会の中で検証のあり方をどうしようかという話を今している最中でありまして。まあ、経過としてはそういうことであります。

○後藤 啓委員長 高橋千代夫委員。

○高橋千代夫委員 まあ、議会改革推進特別委員会は、それはそれでいいんだと思いますが、我々の臨み方としてはどうするつもりなのかということを私は聞いているんです。

○後藤 啓委員長 前の前の提言のときも、当局とちょっと話をしたことがありますけれども、

そういうふうな格好で、項目項目で聞いていくしかないのかなと思っています。

高橋千代夫委員。

○高橋千代夫委員 聞くことにしますとかではなく、やっぱり計画性を持たないと前に進まない。そういうふうにやってみるとかなんとか。まあ、議会改革推進特別委員会でやるっていうけど、そんなの12月までこんなことしてたら。12月なんて一瞬できますよ。なんというかスピード感がないというか。せっかく提言したのであればスピード感を我々は持たなきゃいけないでしょう。

○後藤 啓委員長 後藤仁委員。

○後藤 仁委員 今のお2人のお話、委員長のお話聞いて思ったんですけども。まず一つは、議会改革推進特別委員会なり、そこでも考えているよと。委員長の話だと12月に今までだと当局から提言に対する回答が来るよということでした。高橋千代夫委員の言うのは、そんな12月まで喫緊の課題をそのままやっていいのかと。それまで我々手をこまねいていいのかという話なんで、そこら辺をちょっと整理して、この委員会でも早めに。その回答を待つんじゃないくて、今段階の政策提言がどういうふうになってるかという中間報告でいいから、そういう検証のあり方を取り入れれば。今、我々は危機感を持っているわけです。幼児教育と保育園だとか幼稚園のほうに。それを去年提言したから手をこまねいて、あとは当局が回答を出すまで黙ってていいという話でないぐらいの思いで我々がいるから、今回も同じテーマだけでも真剣にやってみようという話だから。委員長なり議会事務局で言ってる話はわかりますけども、やはり我々議員というのは、生きている、今動いているテーマに対して、臨機応変に市民の声を伝えていくのが議会の役割だから。ただ役所ベースでやっていいという話ではないというふうに思います。

ただし、今委員長の言ったことに対してはわかりました。以上です。

○後藤 啓委員長 佐藤猛委員。

○佐藤 猛委員 今お三方いろいろ発言されていること、1つ1つ大事なことだと思います。その上で、今、12月という一つのワードが出たわけでありますけれども、その提言を受けた形も含めて、今現場では様々な統廃合が現実に進んでいるものというふうな認識もございします。ですから、12月という言葉ではなくて、今後藤仁委員おっしゃったように、現地でいろんなものが進んでいると思いますので、前のときも申し上げましたが、一発でやるなんて簡単な話じゃない。それぞれの経営の話なので。それを踏まえつつ、それぞれの園が、当事者の皆さんが、今いろいろ議論して進んでる部分あるかと思うので、そういうことも時々タイミング見ながら報告をしてもらおうと。その中でチェックしていくと、検証していくと。言い方を変えればですけども、そういうふうなことをやるということにしていけば、半年後にぱっとやるって話じゃなくてです、そういうような形にしていったら委員長のおっしゃるような方向性にもなっていくでしょうし、委員の皆さんのコンセンサスも取れるんじゃないかと思います。私の私見でありますけど、お伝えしたいと思います。

○後藤 啓委員長 暫時休憩いたします。

午前 10 時 08 分 休 憩

午前 10 時 11 分 再 開

○後藤 啓委員長 再開いたします。では、今の意見を踏まえまして。

高橋千代夫委員。

○高橋千代夫委員 ある程度統一性を持つというのは、話的にはわかりますけれども、ものによってはそうはならないものもあるだろうし、必ず予算化ということを我々目指すだけではないと思う。例えばこれから出てくるこの資料の中の市民に対する対応の仕方っていうのは、予算化で片付ける話ではないだろうと。まあ、いくらかの予算は出てくるかも知れない。ほとんど今の常態化している形のやり方を変えていくというのは、そんなに予算かかるようなものでもないものも、ものによってはあるわけなんです。そういうことを考えると、一律の考え方っていうのはできないだろうと私は思うわけです。ある程度、統一的な基準というのはいいのかもしれませんが、それによらないものもあるんだよということはやっぱりきっちりしておかないといけないだろうと思います。以上です。

○後藤 啓委員長 後藤仁委員。

○後藤 仁委員 議会改革推進特別委員会として方法だとか、そういうのを出すというのはいいんですけども。一方、常任委員会の独立性というか、そのテーマ。今までの提案というのは意外とダブった、空き家対策は確かそれこそ佐藤猛委員が委員長の頃からやってたような、もう代り映えもしないっていうか、でもそのくらい重要だという認識でやってきたけども、今の子育ての幼稚園とか保育園の話っていうのは、もうこの1年ぐらいで急激に変わって、そして各経営母体としては定数削減という具体的な策を打ち出しているという喫緊の課題だから、テーマにはしないけれども、検証の中身を民生常任委員会の中できっちりやって12月まで持っていくという民生常任委員会のあり方。議会改革推進特別委員会は議会改革推進特別委員会として案を出して、そこら辺の整合性は、今年度の後半に各常任委員会一緒にできるものはやればいい形で、そんなに四角四面でこうあるべきだという話でなくてもいいんだと思います。

○後藤 啓委員長 他にご意見ありませんか。佐藤猛委員。

○佐藤 猛委員 今お話を伺って基本的な線は一定程度あってしかるべきですから、おそらくこれは議会改革推進特別委員長のもとになるのか、議長のもとになるのかもしれませんが、委員長会議など、議長経験者もおいでになるのでおわりのとおりに、そういうところでまた整合性を持たせるとか。そういったところは柔軟に対応していったほうが生きた政策提言、それから生きた結果を皆様にお示しできるんじゃないかなとは思いますが、そのところも踏まえつつ、議論されていったらいいのかなとは思いますが。

○後藤 啓委員長 市村浩一委員。

○市村浩一委員 今お話をお聞きしましたときに、今回の民生常任委員会のテーマっていうのは政策提言についてを話題にしようと。今、後藤仁委員ですとか高橋千代夫委員からいろいろお話を聞きましたが、やっぱり喫緊たるその課題というものは、それはもう民生常任委員会として常に議論をしていっていいと思うんです。だから政策提言のテーマと、今民生常任委員会でやる喫緊の話っていうのはどんどんどんどん民生常任委員会、当局からの議案が出てくるだけではなくて、このようにして常に勉強会を開いてですね、いろんな形の中で議論してあって、政策提言とはまた別にですね。今回の議論は、政策提言に対する議題を求めているわけでありまして、今言ったようにして喫緊の課題であれば常に議論をして、いろいろな話をしていけばいいのではないかと思います。ですので、政策提言のテーマと、やっぱり喫緊の今までにないテーマと、またちょっと別に捉えてもいいのかなというふうには思います。

○後藤 啓委員長 他にございませんか。それでは私のほうからですが、検証についてはやはり議会改革推進特別委員会のほうで示されると思いますけれども、個別に聞いていく必要があると思いますので、それについては随時当局のほうに問い合わせしていく必要があるかと思ひます。その都度皆さんからご意見を伺ひますので、よろしくお願いしたいと思います。

事務局、検証の際に例えばこちらから聞く機会っていうのは、6月定例議会以降いつでもいいですか。そういう時期的なものはいつでもいいんでしょうか。

○事務局 まず詳細は今検討中のごさひまして、今スケジュールを考えているところは、議会改革推進特別委員会のほうで何とか近々に検証方法についてまとめて、6月定例議会中に各常任委員会のほうにお示しをし、すぐに動いていただきたいというふうにして考えていたところでは。

○後藤 啓委員長 他にございませんか。

例えば6月定例議会中に示される前に、質問事項があるとかっていう場合に、当局と話す機会っていうのは設けられないですか。

高橋千代夫委員。

○高橋千代夫委員 それはここの委員会の独自性ですので、委員長がどうするかということをおちゃんとてば、そうですねと我々もなるわけなので、それをきっちりもっていただきたいという話なんです。でないと、前に進まないでしょ。当局がどうだかなんて気にする必要ないんです。こういう案件で聞きたいっていうことを言って、いついつ聞きたいからそれまで用意してくださいっていうことを言えばいいだけなんですよ。

○後藤 啓委員長 わかりました。では随時もし案件がありましたら、また皆さんにご協力いただきますので、よろしくお願いします。

この件について、他になにかありませんか。

(なし)

○後藤 啓委員長 貴重なご意見がありがとうございました。それでは今までのご意見の中で、「幼児教育」につきましては、検証の中で進めていくということで進めたいと思ひます。

それでは再度、次回の政策提言のテーマについて、改めて話し合っていきたいと思ひます。

まず、前回出されました案や生成AIが提案した喫緊の課題について、事務局で現状や課題を取りまとめました。「結婚問題」「フロントヤード改革」「ジェンダー平等」「地域コミュニティ」についてです。資料を見ていただきたいと思ひますけども、まず「結婚問題」について、結婚を取り巻く日本の状況ですが、国立社会保障・人口問題研究所の発表している全国調査によると、ご覧のとおり1970年頃と比較して、15歳から49歳の女性人口、夫婦の完結出生児数、「いずれ結婚したい」男女数に大きな違いはありません。婚姻件数のみが約5割まで減少しているとのこと。また、令和5年度県政アンケートでは、独身の理由として「適当な相手にまだめぐり合わないから」が最も多くなっています。これは、結婚したい男女はいるが希望どおり結婚できていない社会になっていることを表しています。

次に「フロントヤード改革」については、令和5年度に総務省の自治体フロントヤード改革のモデルプロジェクトとして酒田市が採択され、スマート窓口の開設などに取り組んできました。KPIの達成状況をみますと、改革前と後で各数値が大きく改善されていることがわかります。すでに先進的な取り組みをしているわけですが、今後の課題としては、対象と

なる手続きの更なる拡大が求められています。

次に「ジェンダー平等」についてです。ジェンダー平等はSDGsの目標5としても掲げられています。日本のジェンダーギャップ指数は148か国中118位と著しく低く、G7諸国の中では最下位です。また、内閣府が発表している令和7年男女共同参画白書によると、特に女性において都市に流出したのち地方へ戻らない傾向が強くなるとのことですが、その一方で地元への愛着は女性のほうが強く、出身地域に戻りたいと考えている女性が一定数存在しているとされています。この戻りたいと考えている女性たちに、どうやって帰ってきてもらうかが課題です。

最後に「地域コミュニティ」についてですが、地域社会の問題は、近年複雑化・多様化しており、コミュニティの存続に係る課題も山積しています。酒田市は令和5年2月に策定された「酒田市地域コミュニティまちづくり協働指針」において、自治会・コミュニティ振興会・酒田市の役割を明確にし、地域と行政が一緒になって課題解決を図っていく基本方針を定めました。令和8年度からはこれを更に強化するため、具体的なアクションプランとして「地域コミュニティ推進計画」を策定する予定です。持続可能な地域コミュニティの再構築が急がれます。

このような視点も参考に、みなさんの意見をお聞かせいただきたいと思います。

では、皆様方からご意見を頂戴できればと思いますけども、ガンバリニ杏子委員からお願いします。

○ガンバリニ杏子委員 資料に基づいて入っていきますと、どれも本当にとっても大切な解決を考えていかなきゃいけない問題だと思うんですけども、個人的な意見としては結婚問題とジェンダー平等について、結婚問題の取り扱い方を気をつけないと、もし全部やるとしたら、このジェンダー平等の達成したい目的と相反してしまうなと思ってまして。例えばこの結婚問題で、結婚してもらおう、子ども持ってもらおう、人口を増やしてもらおうみたいな目的のもとに行ってしまうと、そういうのが嫌だから、私は都会に行くのっていう女性の目的と矛盾してしまうかもしれないので扱い方が難しいなと思うんですけども、あんまり結婚をグイッと押し出さないほうがいいのではないかなと。最終目的は結婚だとしても、結婚しましょうみたいなことにしないほうがいいのかなと今の時代では思ったりするところです。以上です。

○後藤 啓委員長 松本国博委員。

○松本国博委員 確認というか、そもそも論で、この4つにも絞られてきたのかなという確認したいなと。あとは委員会から提言出るっていうことは、酒田市が既にやってるんだけど、もう一押しやって欲しいっていう部分のあり方と、全然やってないのでこれやってくれっていう様々な切り込み方があって、既に進んでて実行しててやってんのになんかわざわざ言うのかなっていうのがあります。そこを気をつけないといけないです。いろいろ切り口はあるんでしょうけども、なぜ委員会から提言としてわざわざ出すのかっていうふうなポイント掴まないと、「こんだなやてんなよ」って言われてしまったら終わりです。難しい部分があります。無理やりやらないといけないから出すのも嫌です。そこら辺私はどれがいいっていうわけではないんですが、そこ慎重にやっていきたいし、前も申しましたけどあんまり今度広すぎと、まあ悪いですけど、前回みたいに子育てを全部網羅するような提言では駄目です。ある程度ポイント絞って、これが民生常任委員会に出てきたんだっていうのを

出していただきたいなというふうに、私はポイントを押さえずに、ちょっとここで終わります。

○後藤 啓委員長 一応今回の資料は今まで出た意見をまず集約したものですので、他のテーマの案があるっていうことであれば、それでも結構です。

佐藤猛委員。

○佐藤 猛委員 どれも大事なんですけど、全部のテーマは本当に難しいです。ただ今松本国博委員からもありましたけれども、2つ3つやりすぎちゃうと大変なので、やっぱり個人的には1つに絞ったほうがいいんじゃないかなって思っています。その中で考えていったときに、4つ掲げていただいておりますが、私としては本市における課題と言えば地域コミュニティ。本当に自治会の方々はもう成り立たないということをよく言われますし、このことについて議会として発信してきたことってというのは、私の記憶が定かじゃないのかもしれませんが、あんまりなかったように思います。移住定住だとかそういうことについてはやってきたような感じです。さっき言った空き家だとかですね、障がい者の問題とかやってきたような気がします。地域コミュニティについて所管の委員会としてまとめて提言してきたことは、私の記憶ではないので、やっぱりそこに議会がしっかり取り組んでいるなというところを発信する意味でも、この問題を取り上げてみたらどうかなって個人的には思いました。以上です。

○後藤 啓委員長 高橋千代夫委員。

○高橋千代夫委員 私も前2つ結婚問題とジェンダーってというのは、どちらかというと突き詰めていくと、個人的な思いが強いものだと思います。結婚しろと我々が言ったって個人がしなくてはしなくなるわけだし、ジェンダーに関しても様々な思いがあって、簡単にそうだという答えを出せないものだと。地域コミュニティだけは、これは何とかしなければいけないんだろうし、これまでの統廃合や何かの話の中でももう少し大きなコミュニティっていう考え方を持てないだろうかという模索が始まっているわけですし、それと裏腹に自治会をどうしようかというそういう話も、コミュニティ振興会というよりは、自治会が先にもたなくなるっていうのがもう見え見えになってきてるっていうところがあるんで、私は1つ絞って地域コミュニティにしたほうがいいのではないだろうかと思うんです。これもただ簡単には行く話ではないんですけども、行政としてもそれは手をつけないともう大変なことになって、各地域の情報も集まらなくなるだろうし、情報が集まらないということは適切な周知ができなくなるっていうことに繋がりますので、これをやらないと地域崩壊に繋がると思いますんで、これがいいのではないかと思います。

○後藤 啓委員長 市村浩一委員。

○市村浩一委員 今お二方ありましたけども、この中から選べと言われたら地域コミュニティかなと。逆に言うところの4つ以外にもっとないのかなという感じがします。もっとあるんじゃないかな。じゃあ何だって今言われてもまだちょっとできませんけども、この中から選べと言われたら地域コミュニティかなと思います。もっと何かあるんじゃないかなというのを投げかけて終わります。

○後藤 啓委員長 後藤仁委員。

○後藤 仁委員 私一番最初に結婚問題いいんじゃないかって言った記憶があるんだけど、その後娘だとかそういう人と話していると、ここのテーマにもあるように「結婚を希望している

人はいるがいい人がいない」「適当な相手にまだ巡り合わない」。102歳になった大正12年生まれの佐藤愛子さんの本を最近読んでると、適当な相手というのは、年収600万で顔も良くて、家で家事して、そんな人どこにいるんだと、今から20年ぐらい前に佐藤愛子さんが80代の時にそういう文章を書いてるんです。結論から言うと、結婚なんていうのは1回、とにかくしちやえばいいんだと、駄目だったら別れればいいんだと。私なんか2回も別れてるといふ佐藤愛子さんの本を最近読んでると、行政や議会で議論するのは難しいテーマだと思います。

結論から言うと、平田地域の自治会長会行っても、うちの自治会もうやめると。実際合併してやめてる自治会もあります。最近はどう自治会駄目だと。あともう一つは、この自治会なりコミュニティっていうのが、行政の下請けがつかなくてできない、そういう声を前以上に聞きます。ですから、さっき高橋千代夫委員からもありましたとおり、これを自治会だとかコミュニティどうこうっていう問題の裏には、行政のほうが今までみんな何でもかんでも、民生委員だって自治会長におまかせ。民生委員いないから自治会長が民生委員を兼ねたりする。我々の先輩は、そういうボランティア精神が多くありましたけど、我々の年代だとそんなものは役所でやれよという人間が多くなっておりますので、私は結論から言うと「地域コミュニティ」をお願いします。

○後藤 啓委員長 佐藤弘委員。

○佐藤 弘委員 地域コミュニティもいいんですが、この4つからあえて選ぶとすると、私は結婚問題。なぜかという、日本って結婚イコール出産というのが大前提なんです。1階の生まれた子どもの数見ても366人しか産まれていない。子どもが産まれないということは、保育園も含めてみんな大変になるわけです。個人の問題云々と言いますが、あえて行政が個人の問題に刺さってみたいというふうに思います。例えば、今結婚しない一番の理由はこの資料に書いてある3つじゃなくて、SNSだそうです。もしこのまま子どもが産まなかったら、地域コミュニティも崩壊するんです。あえて結婚問題にメスを入れてみたいというふうに思います。以上です。

○後藤 啓委員長 貴重な意見ありがとうございます。地域コミュニティと結婚問題という話が出ていますけれども、1つに絞り込みたいところではあるのですが、これにつきまして可能であれば、次の委員会の前に、正副委員長と担当部長と意見交換したいと思いますので、そこら辺ちょっとご承知おきいただいて、絞り込みたいと思います。いかがでしょうか。

○後藤 仁委員 テーマは、私は1つにすべきだと思います。1つ。なぜか。前段で話したとおり方法は別としても、保育環境というか幼稚園環境というか、その検証に対して委員の思いは非常に強いものがございますので、そのことを考えたら、今回の提案は1つで、12月まで検証をより深めていくというような民生常任委員会の運営をしたほうが、委員長に口幅ったいですけどもそのほうがすっきりするんじゃないでしょうか。という、あくまでも意見でございます。

○後藤 啓委員長 松本国博委員。

○松本国博委員 決めてもいいんじゃないですか、ここで。どんどん遅くなるような気がするんですけど。確かに問題はいっぱいありますよ、この民生常任委員会が目指す中で。でも二つ今出ていますが、これもこれをもって言うのは。わかりますよ、どちらも大切なのは。ただ絞っていかないと。いつまで経っても。じゃあ今度当局に聞いてまた戻ってきてこのやり取

りをするよりも、民生常任委員会でこれをやるんだっていう熱い思いがきたっていうのは、もう当局も受けとめてやっていただきたいと思います。また集まるのはどうなのかなと。進めていただきたいと思います。

○後藤 啓委員長 高橋千代夫委員。

○高橋千代夫委員 委員長もうちょっと主体性を持ってくださいよ。

○後藤 啓委員長 佐藤弘委員。

○佐藤 弘委員 流れが地域コミュニティになっていますが、地域コミュニティを支えるためにはやっぱり子どもが必要なんです。地域コミュニティが崩壊してしまうのは結局子どもが少ない。子どもが少ないので、崩壊するんだと思うんです。でもあえて1つに絞るとなったらどう考えても、結論は出ているのかなと思います。

○後藤 啓委員長 それでは、多数地域コミュニティという意見が出ておりますけれど、ガンバリーニ杏子委員は。

○ガンバリーニ杏子委員 地域コミュニティ大事だと思います。結婚問題とジェンダーの話を出したけれど、それがどうしてもやりたいですという意味で言ったわけではなくて、やるとしたら結婚問題本当に気をつけないと、捉えられ方が我々の思ったようにいかないかもしれないので気をつけたほうがいいですよという意見だったので、地域コミュニティに全く異論ございません。

○後藤 啓委員長 松本国博委員は。

○松本国博委員 私もどちらかといえばというのであれば、地域コミュニティだと思ってます。ちょっと討論みたいな感じになって非常に申し訳ないですけど、結婚問題がありますけども、そこはそこで大事なんです。そこは外せない部分なんですけども。どっちかって言ったら、地域コミュニティかなと思って。例えば、酒田市がすごく一生懸命やったら結婚問題が少し良くなるのか、市のやることなのかと私は思っています。例えばどこかでイベントする団体に、男女の何かやってよって、場所とお金は酒田市が提供するからって。人はちょっと連絡係でやるぐらいだけど。今時々やるのが酒田市の職員がイベント組んで、男女を集めて、いや女性が集まらないから女性誰かいないとか、そういうような場面が今までも多々あったと思うんですね。あとはボランティア活動をしてる人に若い人を集めて、その中で若い人が会ってあの人カッコいいなとか仕事できるんだな、じゃあ付き合ひましょうかっていう部分があるので。結婚問題に対して酒田市が旗振っても、どれだけの影響があるか。全然効果なくはないと思いますけど、酒田市が本当に手突っ込んでやることなのかなって、私は非常にそのように思ってます。

今朝、SNSで見たんですけど、大人の運動会ってあるそうなんです、県内のどこかで。大人の運動会っていうのはそこで出会って、運動会して、出会いになると。私思うんですけど、酒田市出会いがないのか、若者に出会いをっていう方は、本当に出会いを求めている人はいろんなところに行っている。サーフィンしたりスキーしたりボランティアしたり。そうした活動に参加しないまま、「行政のサポートがもっとあれば出会いが増えるのではないか」と考えるのではなく、まずはその人がいろんなところにでかけてみる。祭りの手伝いとか。ちょっと熱くなりましたけども、個人の主体的な取り組みがあつてこそ、酒田市への要望もより説得力を持つものと考えます。酒田市の議員が結婚問題に取り組むことで、果たしてどこまで効果あるのかなって。すいません、否定的なものになって大変申し訳ないんですけど

それよりだったら、住みやすい地域にしたほうが網羅するかな。

○後藤 啓委員長 それでは、皆様方「地域コミュニティ」がいいというご意見が大多数ということです。

暫時休憩いたします。

午前 10 時 45 分 休 憩

午前 10 時 47 分 再 開

○後藤 啓委員長 再開いたします。高橋千代夫委員。

○高橋千代夫委員 今説明ありましたが、アクションプランを作るのは当局であって、我々は我々の考え方でいいわけなんで、そんなの気にしないでいいんですよ。民生常任委員会は民生常任委員会の独自性があるんです。そんなことで当局と同じ話をしなければいけないってどこにも書いてないでしょ。議員は議員の世界でいいんですよ。

○後藤 啓委員長 後藤仁委員。

○後藤 仁委員 それが二代表制なんだよ。高橋千代夫委員の言うとおりでよ。

○後藤 啓委員長 それでは大勢「地域コミュニティ」なんですけれども、佐藤弘委員は地域コミュニティで進めてもよろしいですか。

○佐藤 弘委員 地域コミュニティも究極は子育てというか子どもの数に関わってくるので、良いと思います。

○後藤 啓委員長 皆様から多くの意見をいただきましてありがとうございます。本日の議員間討議の結果、次期政策提言のテーマは「地域コミュニティ」が有力なようですので、お諮りいたします。

次期政策提言のテーマは、「地域コミュニティ」に決するにご異議ございませんか。

(異議なし)

○後藤 啓委員長 ご異議なしと認めます。

よって、次期政策提言のテーマは地域コミュニティに決定いたしました。

これからの流れですが、テーマが決まりましたので現状と課題について確認するための意見交換会を開催したいと思います。関係団体等、詳しい内容につきましては後日相談させていただきます。

これをもちまして、民生常任委員会を閉会いたします。どうもありがとうございました。お疲れ様でした。

午前 10 時 49 分 閉 会